

# 愛媛県生物多様性センターにおける外来種対応状況(2020)

愛媛県生物多様性センター

## 【はじめに】

国内には約 2,000 種の外来生物が侵入しているとされる。このうち、日本在来の生態系、人の生命や健康、農林水産業に重大な影響を及ぼす、または及ぼす可能性が高い種を外来生物法において特定外来生物として指定しており、2020 年現在、156 種類の動植物が指定されている。指定された種は、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入等の取り扱いを原則禁止となっており、違反した場合は個人では 3 年以下の懲役若しくは 300 万円以下の罰金、法人では 1 億円以下の罰金が科せられる。愛媛県では愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づき、73 種の外来種を侵略的外来種として公表しており、放逐等を禁止している。生物多様性センター(以下センター)では、第 2 次生物多様性えひめ戦略に基づき外来生物対策の推進を図っており、外来種に係る情報収集と対応を業務の一環として実施していることから、2020 年度の対応状況と今後の対応について特定外来生物を中心に報告する。

## 【報告内容】

### (1)2020 年度の主な外来種対応状況

哺乳類・鳥類4件、爬虫・両棲類 3 件、魚類 3 件、昆虫・クモ類 23 件、植物 2 件の情報提供があり、対応を行った(表 1)。ゴケグモ類は写真若しくは捕殺個体の持ち込みによって同定を行った。ヒアリ類は写真または個体持ち込みによる判別を行った。外来カメ類に関しては、写真による判別が中心であったが、今治市のカミツキガメに関しては 2018 年度以降、継続的な捕獲調査を実施している。魚類ではガー科の 1 種が肱川河口域で捕獲された。

表 1 センターへの外来種情報提供数(2020 年)

	哺乳類・鳥類	爬虫・両棲類	魚類	昆虫・クモ類	植物
東予	1	1	0	5	0
中予	3	1	2	12	0
南予	0	1	1	6	2
合計	4	3	3	23	2

### ■アライグマ

2020 年度は、4 月に東温市滑川周辺で 1 頭の幼獣のロードキルが確認された。周辺状況調査を実施したが確実な生息情報や痕跡は確認されなかった。当該地域での情報収集を東温市と連携して継続している。2018 年にアライグマの生息が確認された松山市と松前町において痕跡調査を継続しているが、アライグマの特徴を有する痕跡は確認されていない。本種は 2006 年に松山市で 1 頭のオスが捕獲(金城ほか 2007)されて以降、散発的な確認が続いており、2010 年以降は東予地域を中心に数頭が毎年捕獲されている状況である。隣県の香川県ではすでに定着し、深刻な農業被害を生じているが、本県は農作物被害が顕著になる前の定着初期段階であるといえる。

### ■ゴケグモ類(セアカゴケグモ・ハイロゴケグモ)

新居浜市で雌 1 頭のハイロゴケグモと卵囊が確認された(写真 1)。雌成虫は県内 3 事例目、卵囊は県内初確認であった。

セアカゴケグモは 2014 年に愛南町で確認されて以降、県下全域で散発的な確認であったが、2019 年 8 月、新居浜市において県下最大規模の個体数が同一地点で確認されたことを受けて、新居浜市と愛媛県が合同で確認初期段階における対応(捕殺およびモニタリング調査)を実施し、今年度も 1 回/月の頻度でモニタリング調査を継続している。本種が新居浜市で確認されて以降、モニタリング調査の一環として目視により確認した卵囊と成幼虫の物理的除去を行っており、2019 年と比較して低密度で推移している。次年度以降もモニタリング調査を継続し、当該地域での低密度管理を支援していく。松山市においても、本種が繁殖している可能性が高まったことから、市と合同で周辺調査および 1 回/月のモニタリング調査を 2019 年度から継続している。2016 年に複数個体が確認された西条市では 1 回/年の頻度で調査を行い、経過観察を行っているが本種は確認されていない。2020 年 6 月以降に県下主要 SA、道の駅にお



写真1 ハイロゴケグモ(♀)と卵囊

いて目視調査を実施したが、ゴケグモ類は確認されていない。

### ■ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ)

2020年7月に松山市と新居浜市の港湾およびコンテナ内部で計6,000頭のアカカミアリが確認され(写真2)、関係機関と連携して初動対応を実施した。なお、2018年6月に新居浜市の港湾コンテナでアカカミアリ1頭確認されたことを受けて、新居浜市の港湾を対象に2回/年の頻度でベイトトラップによるモニタリング調査を市と共同で継続している。本年度の調査においてヒアリ、アカカミアリは確認されていない。その他海外航路を有する港湾(松山、今治、川之江)は、環境省委託によるモニタリング調査が継続されている。本種の主な侵入ルートは海外航路のコンテナであり、愛媛県でも侵入の可能性は常に存在していることから、今後も警戒を続けていく必要がある。



写真2 採集したアカカミアリ

### ■外来カメ類

カミツキガメは、今治市伯方で2017年から2018年にかけて複数の目撃情報があり、2018年6月から今治市、とべ動物園と共同して捕獲調査を実施している。2020年度の捕獲調査では11頭のカミツキガメが捕獲されたが、若齢(背甲長17cm以下の個体)の捕獲割合が増加している(表2)。次年度以降も捕獲調査を継続し、成体捕獲による産卵抑制を図っていく必要がある。

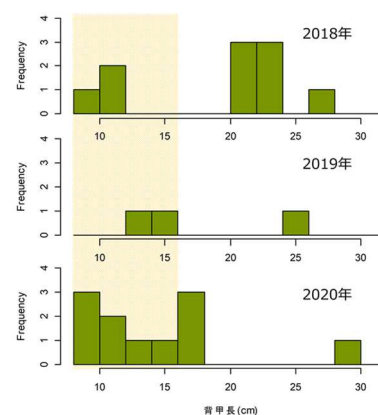


表2 捕獲年ごとの背甲長の頻度分布

### ■魚類

2020年10月13日、肱川河口域でガーと思われる魚類が捕獲されたと通報があった。翌14日に現地で確認したところ、全長110cm、体重8.8kgのガー科魚類(特定外来生物)であったことから、大洲市等と連携して対応した(写真3)。

2020年度は観賞用魚類が野外で確認される事例が例年と比較して多く、コロナ禍の中、何らかの影響で飼育を断念した可能性もある。今後も同様の事例が増加する可能性があるため、情報収集と普及啓発を図っていく。



写真3 捕獲されたガー科魚類

## (2)今後の対応

アライグマ、セアカゴケグモ、カミツキガメは県内定着初期段階であることから、情報収集と対応を継続していく必要がある。カミツキガメについては、比較的狭い水域での繁殖初期段階であることから、少なくとも数年間の捕獲継続によって成熟個体の密度低下を図り、最終的には根絶も視野に入れた防除計画とする予定である。新居浜市で発生したセアカゴケグモについては、捕獲による低密度管理を継続し、当該地域からの拡散を抑制していく。アカカミアリとハイイロゴケグモについては、本種確認以降に実施した周辺調査でも確認されていないことから、県内未定着段階といえる。今後も情報収集に努め、初期防除の支援を行う。

(執筆者:主任研究員 村上裕)